

2019年度海洋教育こどもサミット in みうらにおける各校の発表 その3 三崎中学校2年生 「多分野におけるみうら学・海洋教育の実践」

夏季課題として全生徒が取り組んだレポートの一部を展示・発表しました。

「宮川湾の魅力」については、グーグルマップからの写真を使って、釣りポイントなどを明示して、どのサカナがいつごろ釣れるかの一覧を作っていました。

「ビキニ環礁の水爆実験」については、水爆実験と三浦市との関わりについて調べ、自分の意見をしっかり発表していました。



南下浦中学校1年生 「みうらをアピールしよう」

夏休みの課題のレポートや海洋写真を中心に、班ごとに作った、みうらをアピールする作品の一部を発表しました。

「休日と言ったら三浦でしょ」「三浦の魅力をもっと近くに」など、三浦に足を運びたいくなるようなキャッチコピーを作り、珍しい海浜植物、スナビキソウにも触れていました。



2月13日（木）、三崎小学校3年生が、鱗会（三崎のマグロ仲買人の若手の会）のマグロの授業を受けました。

仲買人の仕事を、たいへん分かりやすく説明していただき、子どもたちは、次のようなことを学びました。

- ・新しい魚市場は、マグロの鮮度を保つために、温度管理と衛生管理を徹底している。ルールを知らない人が入らないように、入場のためのカードがある。場内用の白い長靴を履いて、消毒用のプールに入り、手も消毒する。それが、食品を扱う人の責任である
- ・マグロの尾っぽを見ると、そのマグロが新鮮かどうか、熟成しているかどうか



分かる。

説明の後、子どもたちが、自分の屋号を考え、実際の用紙を使って入札の体験をしました。

最後に、「マグロ屋さんは、いつもお客さんのことを考えて仕事をしている。マグロで食卓が楽しくなればうれしい。そういう思いを持っていることを伝えてほしい。

この授業がきっかけになって、マグロ屋さんになってくれたらうれしい。マグロ屋さんに限らず、どんな仕事でも、やりがいを持つことが大切。やりたい仕事をぜひ見つけてほしい。」と熱い思いを話してくれました。



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで